

令和6年2月20日

厚生労働省
医政局看護課長 様

一般社団法人全国保健師教育機関協議会
会長 臺 有桂

第110回保健師国家試験の出題内容について

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より、保健師教育にご配慮いただき、厚くお礼申し上げます。

また、全国保健師教育機関協議会の活動に特段のご理解とご協力を賜り、感謝しております。

さて、2月9日に行われました第110回保健師国家試験について、当協議会会員校から寄せられた意見を集約し検討した結果につきまして、別紙のとおり、お届けいたします。

何卒、ご検討いただけますよう、よろしくごお願い申し上げます。

I 不適切問題

問題番号	理由	コメント
午前：5	正答が複数ある	正答が2つある。選択肢2と4が正答である。 <理由> メヂカルフレンド社保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 p. 83-84, 医学書院標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 p. 36, 日本保健医療行動科学会雑誌第36巻別冊、講義と演習で学ぶ保健医療行動科学第2版 p. 6-9 に記載されている。
午前：8	正答が複数ある	正答が2つある。選択肢3と選択肢4が正答である。 <理由> A市の規模や地域の課題、精神科病床の有無等、状況が不明な中で評価の指標を問うても一般論として解答できない。正答以外は不適切となるのも不自然である。強いて選ぶと3と4が正答となる。
午前：21	正答が複数ある	正答が2つある。選択肢2と選択肢3が正答である。 <理由> 自殺対策基本法を主題として出題していると考えると2が正答であるが、「日本の自殺対策で」との問いでは3の労働者のメンタルヘルス対策におけるストレスチェックの義務化が該当するため。
午後：1	正答が複数ある	正答が2つある。選択肢2と選択肢3が正答である。 <理由>子供の貧困対策に関する大綱～日本の将来を担う子供たちを誰一人取り残すことがない社会に向けて～の本文 p. 5 に保護者に対する就労支援、p. 22 に児童手当・児童扶養手当の着実な普及、が記載されている。
午後：6	正答が複数ある	正答が2つある。選択肢2と選択肢4が正答である。 <理由> この地区の民生委員、自治会役員も高齢者が多く占めていると考ええると、課題に取り組む組織メンバーも地域課題であるフレイルの当事者であると解釈した場合に2が正答となる(タキソノミーⅡ)。自治会や老人クラブなど地縁組織から作る組織は地縁組織と考ええると4が正答となる(タキソノミーⅠ')。人口100人の中山間地域を想起できる受験生は役員を高齢者が占めていると解釈し前者を選ぶと考える。後者であれば状況設定が不要である。
午後：9	正答が選べない	正答が選べない。 <理由> 選択肢はすべて初回面接時に情報収集する内容であり、

		情報収集する前に優先度は付けられない。
午後：11	正答が複数ある	正答が3つある。選択肢2と3と4が正答である。 <理由> 性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について（平成27年4月文部科学省）および性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）を参照すると、2は具体的記述がある。3は、個別の事情に応じて進める必要があること、とされており、意向を踏まえて周知することは適切であるため、正答である。4は必要に応じ医療機関等とも相談しつつ、「サポートチーム」の設置等の適切な助言等を行っていくこととあり、医療機関の助言を受けてからサポートチームを設置することは、適切である。なお、出題にあたっては、多様な事例があると思われる中で、一般論としての問いはよろしくないとする。
午後：49	正答が複数ある。	正答が2つある。3と4が正答である。 <理由> 服薬確認を行う場所を、日々の服薬確認の場と捉える場合と、服薬確認に責任を持つ場所と捉える場合の2つの解釈ができる。前者では3を後者では4を選択する。

II その他改善を要する問題

理由	コメント
設問の改善が必要である	午前：11 状況設定文から、容易に選択肢1, 2, 3が誤答とわかり簡単すぎる。
	午前47～49：状況設定問題として簡単すぎる。この調査が必要となる社会的な状況を設定してほしい。
	午前：52 状況設定問題であるが、状況設定を使わず解答可能である。
	午前：53 状況設定問題であるが、状況設定がなくても解答可能である。保健師国家試験に関する知識がなくても正答を選ぶことができる。収容人数やトイレの状況から必ずしも同様のことが起きるとい根拠はなく、正しいのはどれかと問えるものではない。
	午後：3 一般人でも解答できる。保健師基礎教育で学ぶ内容ではない。建築、造船系の企業のあるところや、都会などでは実感としてベトナム人が多いことを感じているようであるが、その感覚には地域差が大きい。
	午後42～44 警察に町の保健師が泥酔者を迎えに行くという状況は、新人保健師が知っておく知識として一般的ではな

	い。警察から連絡があるとすれば保健所ではないか。
使用する文言に留意されたい。	午前：22 特定保健指導の未受診者 は、特定保健指導の対象者のうち未実施の者 である。
	午前：44 選択肢4の「職場環境測定」という言葉は教科書等に記載がない。「職場環境の測定結果」であれば適切である。
	午後 45～47 45の選択肢4は保健室登校もあるためナンセンスである。47の選択肢4は義務教育に懲戒制度はなくナンセンスである。2021年の旭川市での中学生いじめ自殺事件を想起した（事件では中2女子）。事例設定に配慮されたい。
	午後：52 選択肢2の発達相談支援事業所、という名称の機関はない。児童発達支援センター、児童発達支援事業所がある。正しい名称での出題を求める。

Ⅲ 良問について

良問について次の視点で意見を募ったところ特に下記の問題についてコメントがあった。設問のテーマや状況設定について工夫されている点を評価したい。

- ① 出題基準に沿い、新しい切り口である。
- ② 保健師養成課程卒業時に必要な知識と技術に関する問題である。
- ③ 実習・演習経験によって判断することが出来る問題である。
- ④ 難易度が適切である(よく学習した者は正答を学習が浅いと誤答を選ぶ)
- ⑤ グラフ・データ・画像など文章以外の情報によつて的確な判断ができる

問題番号	理由	コメント
午後 1	① ②	子どもの貧困対策は社会的な問題であり、保健師は最も身近に寄り添える職種である。
午後 8	① ②	難病患者の生活支援について具体的に考えることが必要な事例である。
午後 11	① ②	教科書等への記載は多くはないが、積極的に学ぶべきテーマと考える。
午後 21	① ②	保健指導に有用な理論である。
午前 24 午前 27 午前 30 午後 22	⑤	図表を読み取る問題が増加しており、幅広い学習の成果を問う問題となっていた。

IV 全体について

1) タキソノミーレベル分類の結果

第110回のタキソノミーは、I：46問（41.8%）、I'：27問（24.5%）、II：27問（24.5%）、III：10問（9.1%）であった。第108回、第109回と比較してタキソノミーIIとIIIの割合が増加した。保健師としての思考や判断を問う設問の増加は評価したい（図1）。第103回から第110回のタキソノミー分布の推移から、IIとIIIを合わせた割合がさらに増加し、40%台となることを望む（図2）。今回、状況設定問題にタキソノミーがIとI'の問題があった。状況設定問題のタキソノミーはIIまたはIIIとなることを望む。

2) 選択肢について

選択肢に、組み合わせを選ぶ新しい問い方があった（午前53）。

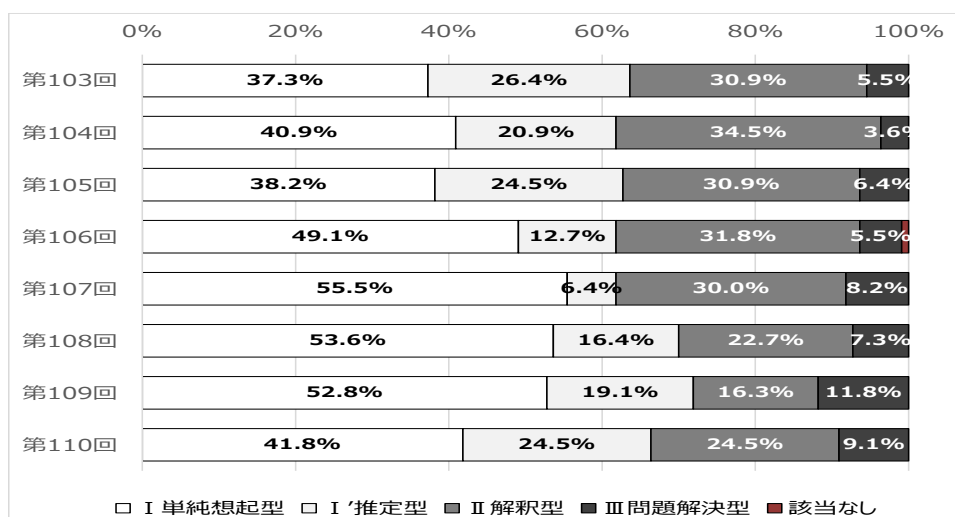


図1 タキソノミー分類の推移（全体）

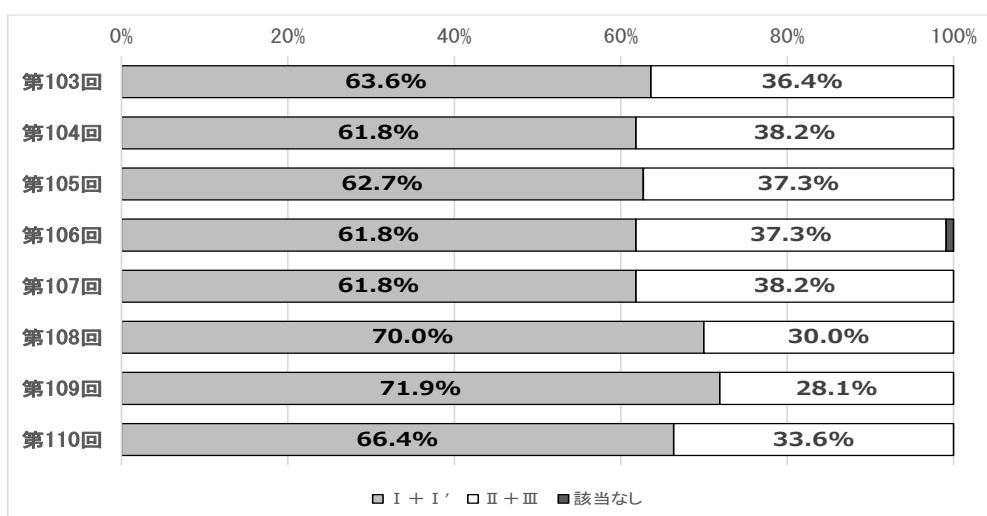


図2 タキソノミー分類の推移（二分類）

以上